

2007年7月号



シビル メール ニュース

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方で購読を希望される方は、必要事項(卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス)明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

オープンカレッジが開催される

6月17日(日)に日本大学の附属高等学校で大学進学を希望する生徒に対する日本大学工学部のオープンカレッジが開催されました。オープンカレッジは今年が初めてのイベントであり、駿河台1号館校舎で行われました。3~5階では各学科がブースを設けて学科紹介を行い、1号館各所には理工系クイズ(CSTクイズ)を設置し、それぞれ高校生を楽しませる配慮が見られました。CSTホール(6階)では学部長の挨拶をはじめ、オリエンテーションによって理工学部の説明とオープンカレッジのガイダンスが行われました。土木工学科のブースには11校、延べ170名ほどの附属高校生が来訪され、一時はパンフレットの配布が追いつかず、列ができるほどの盛況でした。また土木工学科のブースには入試相談コーナーを設け、入試担当の先生方が対応にあたり、生徒の入試への疑問や日大土木の魅力を説明いたしました。

ミニ講義では岸井隆幸教授の「まちづくり・地域づくり・世界づくり：美しい故郷のために」と安田陽一教授の「水生生物の遡上、降下に配慮した魚道の流れの解析について -土木技術のチャレンジャー-」が12時から13時までと13時から14時まで、30分ずつ2回行われました。中には40分ほど前から講義を聴きたいと待ってくれた生徒もおり、約40名の高校生が熱心に聴講しておりました。



入試相談コーナーと学科紹介パネル前で対応にあたる先生方と生徒



ミニ講義をされる岸井隆幸教授

石川県土木部長 小間井孝吉氏が講演

本年4月に石川県土木部長に就任された小間井孝吉氏(昭和45年卒)が来訪され、6月29日(金)に駿河台校舎で石川県能登地方を襲った地震公害について大学院ならびに学部学生に対して講演をしていただきました。

理工・短大合同のスポーツ大会が開催される

5月29日(火)に船橋校舎にて平成19年度理工・短大合同スポーツ大会が行われました。

開会式は午前9:30から陸上競技場にて行われ、越智学部長の開会の挨拶、選手宣誓ならびに競技上の注意と校歌斉唱があり、約6時間にわたって各種競技が行われました。



ソフトボール決勝の土木対決

土木工学科の学生はほぼすべての種目となる16種目に、延べ49チームが参加し、大いに会場を沸かせておりました。ソフトボールの決勝は土木同士の対決となり、かえってライバル意識を燃やして競い合う姿が印象的でした。

また審判員としても24名の土木工学科の学生が活躍し、ターゲットバードゴルフ(※)の会場責任者には梅村先生(教授)が担当、初心者への指導や競技の実演をする姿が見られました。



開会式にて挨拶をされる越智学部長



ターゲットバードゴルフの実演をされる梅村先生

※ ターゲットバードゴルフ

合成樹脂製の羽根付きボールを普通のゴルフクラブで打つゴルフをミニ化した競技です。ホールはパラソルを逆さまにした様な形状で、ふわりと打ち上げる技術を要求されますが、少ない練習で手軽にゴルフの醍醐味を味わうことができます。

日大土木 Who's who

先月号から開始した日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。

第2回目の今号では土木学会会長をはじめ数々の要職につかれ、我が国の土木界で初めて文化勲章を受章された鈴木雅次博士です。



No. 2

氏名：鈴木 雅次（すずき まさつぐ）

専門分野：港湾工学

鈴木雅次先生は1889年3月6日に長野県松本市のお生まれになり、1914年に九州帝国大学工科大学土木工学科を卒業されました。そして卒業後、内務省に入省され、東京、横浜土木出張所などを経て、1930年に日本大学工学部の兼任教授に就任されました。1942年には内閣内務技監となられ、1944年には日本土木学会会長に就任、1945年に内務省を退官され、戦後は日本大学教授のほかにも日本政府の各種審議会委員などを歴任されました。そして1952年には日本大学国土総合開発研究所長に就任、1964年には日本大学名誉教授、そして、1968年には土木界では初めての文化勲章受章者となりました。1974年には勲一等瑞宝章を受章され、1987年5月に98歳の生涯を閉じられました。この間、多くの教え子を各界に輩出され、日本大学理工学部土木工学科の名を世の中に知らしめてくださいました。1968年に文化勲章を受章されたときに土木学会誌に次のような感想を寄稿されております。「たとえ私の功績はささやかでも、敗戦によって、日本が投げこまれた奈落の底から、再びはい上がって、世界の奇跡と見なされる今日の繁栄を具現するための基礎的条件を国土の上に、最も有効に整備し来った土木関係者全般の功績は、誠に大きなものがありました。それらが世間から、広く認められて、その顕賞のセレモニーに際し、比較的年寄りの私が呼び出されて、この過分の光栄に浴することと相成ったのでありましょう。先輩の中には、私よりすぐれた仕事をなされた方がおられました。まだ土木の方面に、文化受賞の「門」が開かれないうちに早くお亡くなりになって、ただ私だけが長く生き残っていたため、その門通過第一号に、ご指名を受けたのであります。だが一度わが方に開かれた門からは、今後その顕賞にあたいする立派な業績の人々が、つぎつぎに世に出てゆくことに間違がないと思います・・・・・・」故 鈴木雅次先生のお人柄が偲べれます。

（平成14年7月発行の土木ニューズレターにも鈴木雅次先生の詳細について掲載されています）

最近の教員活動状況



野村卓史教授が日本風工学会賞（論文賞）を受賞しました。

野村卓史教授は、平成 19 年 5 月 31 日に九州工業大学（北九州市）で開催された平成 19 年度日本風工学会通常総会において、平成 18 年度日本風工学会賞（論文賞）を受賞しました。受賞対象の研究は、論文名「気象要因を考慮した音の伝播の数値解析法に関する研究

（総合題目）」です。この研究は、風が吹いている状況や気温が高度によって変化している状況のもと、これらの気象要因によって音の伝わり方が変わることを予測する数値シミュレーション法を開発したものです。研究成果を発表した国内外の 3 編の論文が高い評価を受けました。野村教授は急用のため授賞式には出席できませんでしたが、後日渡された賞状には、風神の絵が銀色のレリーフにあしらわれています（写真）。

なお、通常総会と平行して開催された日本風工学会年次研究発表会において、野村卓史教授は「風が吹いているときの音の伝播の測定」と題する研究発表を行い、長谷部寛助手は「タンデム配置正方形角柱の角柱配置間隔が流れ場に及ぼす影響の検討」と題する研究発表を行いました。



日本風工学会賞 賞状



後藤浩専任講師が 6 月 24 日～27 日にアメリカハワイ州ホノルル市アラモアナホテルで開催された PACON2007 において、「NEW METHOD OF MOORING PONTOONS USING MAGNETIC FORCE」を発表されました。

シュナイダー名誉教授による特別講演が開催される

ウィーン工科大学名誉教授のウィルヘルム・シュナイダー博士の特別講演が、5 月 28 日（月）午後 5 時から駿河台校舎 1 号館 122 教室で行われ、多数の教員ならびに学生が聴講されました。講演題目は“Analytical and numerical investigations of undular hydraulic jumps in turbulent open-channel flow”（乱流開水路中の波状跳水についての解析的、数値解析的検討）でありました。



講演中のシュナイダー博士

平成 19 年 7 月の広報行事について

平成 19 年 7 月の広報行事が下記の通り予定されておりますので御来校ください。

○入試フォーラム

日程：7 月 15 日（日） 駿河台校舎
ミニ講義 A 教授 島崎敏一 12:50～
ミニ講義 B 専任講師 山敷庸亮 13:20～

○オープンキャンパス

日程：7 月 29 日（日） 船橋校舎
ミニ講義 A 教授 野村卓史 11:20～
ミニ講義 B 教授 松島 眸 11:50～